



**Hokkaido University**  
**Faculty of Veterinary Medicine**  
**第 819 回 獣医学研究談話会**



下記の通り開催いたしますので、皆様、多数ご来聴ください。

日時： 2025 年 7 月 18 日 (金曜日) 16:30～17:30  
場所： 北海道大学大学院獣医学研究院 講堂  
演者： 田村 豊先生 公益社団法人 北海道獣医師会会長  
酪農学園大学名誉教授



**演題：ウエルカムショットを考える ー動物に対する抗菌剤の予防的投与の功罪ー**

子牛の死産事故の多くは腸炎や肺炎などの細菌性感染症であり、臨床獣医師は抗菌薬による治療や予防を余儀なくされている。しかし、抗菌薬の使用による最大の問題は薬剤耐性菌を選択させることである。特に抗菌薬の過剰使用や誤用は思いもよらぬ薬剤耐性菌の蔓延へ繋がることがある。現在、ヒトの医療において薬剤耐性菌が蔓延しており、多剤耐性菌感染症は最大の脅威となっている。このような薬剤耐性菌はヒト、動物、環境といった生態系で循環しており、ワンヘルスの視点での対策の重要性が叫ばれている。したがって、動物分野に深くかかわる獣医師は、常に薬剤耐性菌の選択・増加を抑制することを考える必要がある。最近、農場で細菌感染症が持続的に発生する場合に、導入牛に対して抗菌薬を予防的に投与 (prophylactic use) するウエルカムショット (WS) が汎用されている。この用語は専門用語ではなく、また海外で一般的に使用されているわけでもなく、日本独自に生産動物の農場現場で使用されている。抗菌薬の予防的使用は間違いなく外見上健康な動物を対象とするものであり、過剰使用に直結することから慎重に実施する必要がある。特に家畜に使用する抗菌薬の内、医療上重要な抗菌薬は二次選択薬として指定され、一次選択薬が無効な症例に限定的に使用することとされている。もし、二次選択薬に対する薬剤耐性菌が出現した場合は、ヒトの医療に及ぼす影響が甚大であるからである。ところが、最近、感染状況を一時的に鎮静化するとの目的で WS として二次選択薬を使用することが報告された。これは臨床獣医師として止むを得ない状況があったと推察するものの、越えてはならない境界線であったと考える。

今回のセミナーでは、過去に遭遇した事例を紹介するとともに、WS の実態を紹介し、抗菌薬の予防的使用の功罪を考えてみたい。

連絡先：感染症学教室 今内 覚 (内線 5274)  
世話人：生理学教室 山口 聡一郎 (内線 5200)